

## 線押え方式端子(圧着端子兼用)の接続方法

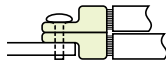
1. 電線を直接接続する場合は、電線をまっすぐさし込み適正なトルクで締め付けてください。
2. より線の場合は、電線が片方に寄らないように振り分けて接続してください。



## ブレーカへの圧着端子の接続

### 1. 2個接続の場合

- ① 上下背あわせに接続してください。
- ② 圧着端子の大きさがちがう場合は、大きい方を下側に接続してください。
- ③ 下側の圧着端子は14mm<sup>2</sup>以上の取付可能なものを使用してください。



## 漏電遮断器などの施設場所

内線規程 1375-3

漏電遮断器などは、容易に点検できる場所に施設すること。

(機械器具に内蔵される場合を除く)

次の各号のいずれかに該当する場所に施設しないこと。

- ① 高温の場所
- ② 湿気の多い場所
- ③ 水気のある場所
- ④ 特に振動の著しい場所

## 太陽光発電システムなどで使用する遮断器の定格電流の選定のお願い

太陽光発電システムなどで使用する遮断器のように、高い負荷電流で連続的に通電すると、遮断器は設置環境や配線方法などの影響により、定格電流以下でも不要動作することがあります。そのため、最大負荷電流が遮断器の定格電流の80%以下となるようにご使用ください。(右表参照)

最大負荷電流

遮断器の定格電流 (A)	最大負荷電流 (A)* [定格電流の80%以下]
15	12
20	16
30	24
40	32
50	40
60	48
75	60
100	80
125	100
150	120
175	140
200	160
225	180
250	200
300	240
350	280
400	320

\*不要動作しないことを保証するものではありません。

## ブレーカへの2本の電線の接続

### 1. ソルダレス端子方式の場合

安全ブレーカタイプにやむを得ず電線を2本接続する場合は、φ1.6とφ1.6または、φ2とφ2の組み合わせ以外の複数電線接続は避けてください。

(端子への接続方式一覧は、C-26、C-27ページ参照)

■B-1EA、B-2EA、GB-1ZA、GB-2ZA、GB-2EA、GBU-3・1EA、GBU-3・1HEA等

### 2. 線押え方式(圧着端子兼用)の場合

B-53EC等の線押え端子を持つ器種に電線を2本接続する場合は、同一サイズの電線で接続してください。その際、心線を振り分けずに直接接続してください。

異径電線の組み合わせで接続する場合は、圧着端子をご使用ください。



## 標準使用条件

遮断器は次の標準使用条件で使用されるものとする。

JIS C 8201-2-1、JIS C 8211

JIS C 8201-2-2、JIS C 8221

JIS C 8222

■周囲温度 -5~40℃の範囲内。ただし24時間の平均値は35℃を超えないこと。

■標高

取付場所の標高は、2000mを超えない。

■湿度

相対湿度は、最高温度40℃で85%を超えてはならず、結露のないこと。

(注)温度補正曲線はさらに広い温度まで示していますが、その環境での長期使用を保証するものではありません。

## 遮断器の接続

遮断器の接続は、「電源側」「負荷側」の表示どおり正しく接続してください(正接続)。

「電源側」「負荷側」を逆に接続した場合(逆接続)、遮断性能が低下するおそれがありますので避けてください。また、漏電遮断器などの内部にトリップコイルを装備しているも

のは、動作した場合、トリップコイルに通電され続けるため、トリップコイルが焼損するおそれがありますので、必ず「電源側」「負荷側」の表示にしたがって接続してください。各器種の逆接続可否は、器種一覧表の項目を参照ください。